

# LEED・WELL 認証が堅調

## グリーンビルディングジャパン

# 環境と健康への関心、年々高く

日本国内でのLEED（環境性能評価システム）とWELL（健康建築性能評価制度）の認証件数が順調に伸びている。グリーンビルディングジャパン（GBJ）が公開した「グラフで見るLEEDとWELLの今」によると、2023年8月11日時点の累計LEED認証件数は238件となったほか、WELLも登録件数が136件、認証件数が34件となった。環境や健康に対する国内での関心は年を追うごとに高まっており、今後も認証件数は順調に伸びるとみられる。

LEEDの認証を受けた建物の累計延べ床面積は、22年だけで127万4000平方メートル増加して400万平方メートルを突破し、23年も8月までで26万7000平方メートル増加している。用途別では、オフィスが約3割、商

業が約2割を占めた。GBJが「ビル全体の主要用途がオフィスや商業でいるケースと、テナントスペースの用途がそれぞれオフィスや商業でテナントスペースだけを評価対象としている

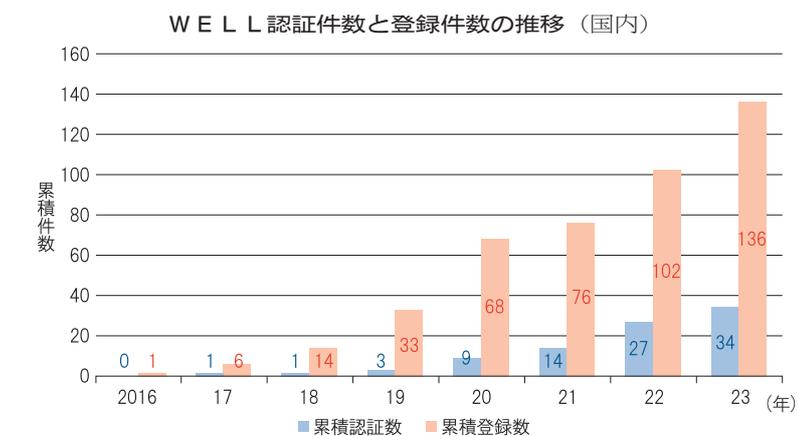
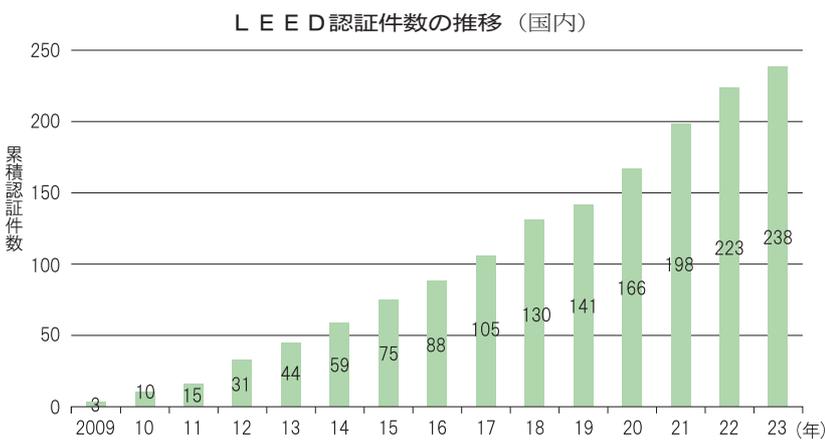
認証レベルでは、上から2番目の認証レベル「ゴールド」が約6割を占め、

### LEEDの上位認証取得難しく

ケースがある」と説明するところ、ビルの一部だけで認証を得るケースも増えている。用途の種類を見ても、教育や宿泊、住宅、研究所、倉庫、データセンターなど多種にわたる。ただし、世界的には戸建て住宅の認証取得が最も多いものの、「日本で戸建て住宅のLEED認証取得例は報告されていない」（GBJ）という。

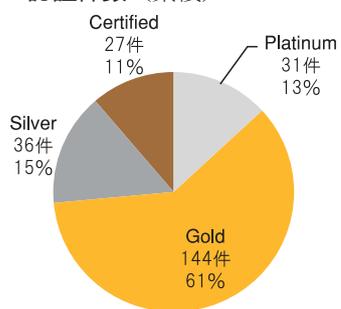
### WELL認証はソフト要件コミットで高得点

最上位の「プラチナ」は1割強にとどまる。GBJは「数年に一度、認証システムがバージョンアップされ、要件が厳しくなるため、より新しいバージョンでの上位レベルの認証を目指すのは大変難しい」としている。

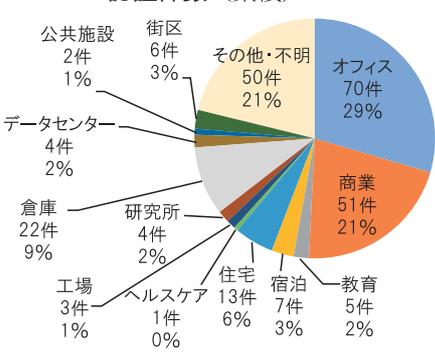


## 海外は戸建LEED認証最多も国内報告なし

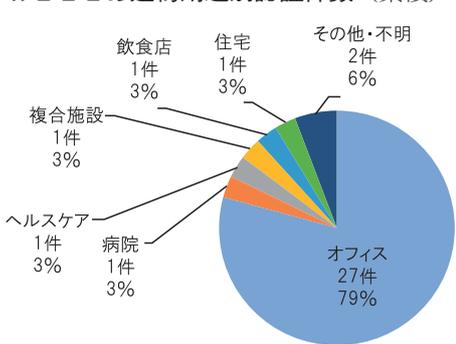
LEEDの認証レベル別認証件数（累積）



LEEDの建物用途別認証件数（累積）



WELLの建物用途別認証件数（累積）



日本国内のWELL登録件数は、22年だけで26件増加して100件を突破し、23年も8月までで34件増加した。認証件数も22年に13件増えて27件となり、23年もこれまでに7件が認証に至った。ただ、WELLは竣工後から一定期間経過後に現地審査を受けることが多いため、認証取得までの期間が長く、「登録しても認証取得に至らないケースも存在する」（GBJ）と認証時のハードルの高さを指摘する。認証建物の延べ床面積は、22年だけ

で、21年までの累積床面積（11万2000平方メートル）の倍以上に当たる16万1000平方メートル増えて27万9000平方メートルとなった。23年は8月までで2万9000平方メートルの増となり、30万平方メートルを超えた。

認証案件を用途別に見ると、オフィスが約8割を占め、病院、ヘルスケア、複合施設、飲食店、住宅がそれぞれ1件ずつとなっている。GBJは「WELL認証が健康とウェルビーイングに焦点を当てた認証であることが主な理由だろう」と、企業経営者が注目しやすい認証システムであることを理由に挙げる。

認証レベル別では、最上位の「プラチナ」が4割強で、合計で9割を占める。GBJによると「WELL認証は、建物ハードに関する要件のほか、ビル運営、総務・人事規定、提供する食物などのソフト要件があるため、それらにコミットして取り組み、比較的高得点を得ている」という。

WELL認証件数（世界）

